

### 〔2012年度 国際文化学部企画報告〕 「学びの場」としての飯田・下伊那一その魅力と可能性を探る

曾, 士才 / SJ委員会 / 高柳, 俊男

---

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

異文化 / 異文化

(巻 / Volume)

14

(開始ページ / Start Page)

41

(終了ページ / End Page)

42

(発行年 / Year)

2013-04

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00008671>

[2012年度 国際文化学部企画報告]

## 「学びの場」としての飯田・下伊那 —その魅力と可能性を探る

報告者：S J 委員会（曾士才、高柳俊男）

法政大学国際文化学部では、本年度から留学生を主対象とした「S J 国内研修」（8泊9日）と、それに向けた事前学習授業「世界とつながる地域の歴史と文化」（2単位）が新規にスタートする。この研修と事前学習授業は、長野県南部の飯田・下伊那地方について体験的に知ることを通じて、日本を地方の視点も加えて、複眼的・重層的にみる目を養うことを目的としている。

これにあわせて、飯田・下伊那を舞台としてこれまで行なわれてきた各種の「学び」を、映像上映と関係者のシンポジウムを通して考察する機会を設けた。小学校から大学まで、学校という場での学びもあれば、社会教育としての学びもある。また、満州移民などの「負の遺産」を、今後どうプラスの価値に転じていくかといった意味での、切実な学びの現場も垣間見ることができた。まさに「学びの宝庫」とも言われるこの地域における魅力・可能性を探り、研修を新たに行なう上での課題をともに考える場となった。

「S J 国内研修」という学部として新規に実施する事業に関して、学部内の関心を高めることを主目的にイベントを開催したが、学部内からの参加者はごく少数だった。逆に、遠路駆けつけてくださった3名の飯田市職員をはじめ、50人近い参加者の大半は在京飯田出身者などの関係者で、今後ともお世話になるゆかりの方々との交流の場としても有意義であった。

- 
- 日時：2012年7月7日（土） 13:30～17:30
  - 会場：ポアソナードタワー 0300教室
  - プログラム：
    - (1) 映像上映
      - ・渋谷区立中幡小学校の飯田体験学習
      - ・それを引き継いだ飯田での渋谷区緑体験交流
      - ・飯田を舞台とする全国の大学によるフィールドスタディ
      - ・満蒙開拓の語り部養成講座「ピースLabo.」
    - (2) シンポジウム：「学びの場」としての飯田・下伊那を考える
      - ①杉原五雄（渋谷区立中幡小学校元校長）：ドングリの森づくり
      - ②吉田伸之（飯田市歴史研究所所長／東大大学院人文社会系研究科元教授）：飯田・下伊那で地域史を学ぶ
      - ③寺沢秀文（満蒙開拓平和記念館事業準備会専務理事／不動産鑑定士）：いまなぜ満蒙開拓平和記念館か？
      - ④西澤栄一郎（本学経済学部教授）：環境・農業をテーマとするゼミのフィールドワーク
      - ⑤高柳俊男：飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる
- \*司会：曾士才
-